

年 組 名 前

2021年3月27日 中日こどもウイークリー

名古屋の街に活気を

愛知

16年ぶり金しゃち地上へ

重さ1・2tもある「金のしゃちほこ」が、ヘリコプターでつり上げられてきました。愛知県名古屋市にある名古屋城。8日、天守の屋根から16年ぶりに地上へと降ろされました。新型コロナウイルスで活気がなくなった名古屋の街を元気にするため、20日から城内で展示されています。

金しゃちが「名古屋のシンボル」になったのは、江戸時代にさかのぼります。江戸城や大坂城にも金しゃちが造られました。雷が落ちたり火事で焼いたりしてなくなってしまうこともありました。名古屋城は1612年ごろ完成し、戦争で城ごと焼けてしまつた1945年まで

で残ったので有名なのです。今の金しゃちは、59年に造られた2代目。雄と雌の2体で計88kg分の金が使われています。ちなみに、しゃちは海にいるシャチとは異なり、空想上の生き物です。たくさん水を吐くことで、火事を防ぐ願いを込めて屋根に飾られました。（8日、中日新聞夕刊1面などに掲載）



ヘリコプターでつり上げられた名古屋城の「金のしゃちほこ」=愛知県名古屋市で

問1：金しゃちは、なぜ地上に降ろされたのでしょうか。その理由を11文字で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ため

問2：金シャチは、なぜ屋根に飾られたのでしょうか。その理由を5文字で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--

ため